

近鉄グループホールディングス株式会社（大阪府大阪市）

環境に配慮した鉄道ターミナルの整備による地域活性化を進めるとともに、先進的でわかりやすい環境情報の開示や、沿線地域での二酸化炭素の排出削減に努めるなど、環境保全に関する活動に積極的に取り組んでいる。

（取組みの概要）

■環境に配慮した鉄道ターミナルの整備による地域活性化

- ・大阪阿部野橋駅では**駅コンコース・ホームの全照明をLED化、冷凍機の更新、空調インバータ化等の省エネ設備の導入**を実施。
- ・あべのハルカスでは、自然の風や光を利用する吹き抜けで省エネを実現するとともに、**バイオガス発電**を実施。

■先進的でわかりやすい環境情報開示とCO2削減活動

- ・世界企業のCO2削減に関する戦略や行動を公表する「**CDP**」（旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）において、回答した鉄道会社では気候変動リスク等の理解度・気候変動対策の有効性で**上位の成績**。

当社のCDPスコア

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
ディスクロージャー	80	80	78	91	95	※1
パフォーマンス	C	C	C	B	B	※2

※1 情報の質や、気候変動のリスクと機会の理解度を評価します。

※2 気候変動対策の有効性をA～Eの5段階で評価します。

■沿線地域での省CO2等の取組み

- ・伊勢志摩サミットでのカーボンオフセットに協力等。

大阪阿部野橋駅等での取組み



大阪阿部野橋駅

ターボ冷凍機、空調機を省エネタイプに更新

ターボ冷凍機 2台を更新

(導入前)612,138kWh → (H26導入後) 327,960kWh (▲47%)
削減電力量 ▲28万kWh (▲159 t-CO2)

(導入前)562,948kWh → (H27導入後) 462,493kWh (▲18%)
削減電力量 ▲10万kWh (▲56 t-CO2)

空調機 4台をインバータ化

(導入前)326,369kWh → (H22導入後) 271,606kWh (▲17%)
削減電力量 ▲5.5万kWh (▲31 t-CO2)

薩摩川内市（鹿児島県薩摩川内市）

次世代エネルギーを活用した「エネルギーのまち」づくりの推進に向けて大型電気バスをはじめ低公害車導入・普及を促進するとともに充電インフラ整備を図るなど環境保全に関する活動に積極的に取り組んでいる。

（取組みの概要）

■次世代エネルギーを活用したまちづくりの導入

- 平成26年4月に川内港と川内駅を結ぶ路線に**全国初の大型電気バス**を導入。
- 甕島のエコアイランド化に向けた取組みを行い、**電気自動車（3台）と超小型モビリティ（20台）を一斉導入**。
- 充電インフラ整備を積極的に取組み、平成26年度に市が先導的に**急速充電器（8基）を公共施設に設置**。
- 公用車では、平成24年度に県内自治体で初めてプラグインハイブリット車を導入して以降、これまで計3台導入、平成26年度に電気自動車（10台）を一斉導入。
- 小水力発電（らせん水車）で発電した電気を電気自動車に活用する地域モデル事業を実施中。

大型電気路線バスの導入



電気バス主要諸元

川内港シャトルバス(愛称:こしきバス)		
項目	諸元	
用途	大型路線バス	
床構造	ノンステップ(低床)	
乗車定員	68名(乗客定員25座)	
車両寸法	全長	11.065m
	全幅	2.495m
	全高	3.475m
車両重量	11,250kg *1	
最高速度	85km/h	
1回充電時の最大走行距離	80km(参考値) *2	
充電方式	充電器	専用急速充電器
	方式	プラグイン方式
駆動モータ	形式	非同期式誘導三相交流モータ
	最高出力	240 kW
搭載電池	仕様	DC621.6V / 150Ah / 93.3kWh
	商用SOC	10% ~ 90%
	冷却方式	空冷式

*1:営業稼働前の車両重量
*2:走行条件(空調など)、道路・交通事情により変動します。

甕島での超小型モビリティ及び電気自動車(EV)の導入



急速充電器の設置風景



市役所本庁舎に設置した電気自動車用急速充電器
※合同会社 日本充電サービス(NCS)のネットワークに加盟することで、統一的な課金を実施。

高速船で甕島へ



「高速船 甕島」

電車で薩摩川内へ



「九州新幹線」
「肥薩おれんじ鉄道」

低床ノンステップバス



1日4往復運行
(往復距離約28km)



川内港
高速船ターミナル



川内駅
(充電設備の設置)